

・巻頭言 …… 時代の先頭に立つ学校づくりの推進 ……	(校長) 平塚 正明 (高校19期) ——— 1
・特集 (創立120周年特別企画) ……	佐野 武 (高校26期) ——— 2
	海外派遣生 (高校44期、52期、53期)
・ひと ……	古後 精一 (大中58期) ——— 8
	村津 和正 (高校24期) ——— 10
	近藤 美保 (高校28期) ——— 12
・南原繁先生を偲ぶ研究会に出席 ……	工藤 勝武 (大中53期) ——— 14
・新任ご挨拶 ……	岩崎 哲朗 (高校20期) ——— 16
	秋月 種親 (高校15期) ——— 17
・第5回健康セミナー (高校部会主催) ……	講師・榎原真由美 (高校30期) ——— 18
・高校同窓ゴルフ開催報告 ……	吉田祐一郎 (高校29期) ——— 20
・退任ご挨拶 ……	甲斐 公人 (高校5期) ——— 21
・サッカー部OBだより ……	七蔵司真一 (高校6期) ——— 22
・在校生のページ ———	23
・部会だより ———	33
	(大中・第一高女・第二高女・碩友会・高校)
・全体理事・評議員会会議録 (平成17年度) ———	65
・高校部会理事・評議員会会議録 (平成17年度) ———	66
・同窓会役員名簿 ———	67
・編集雑感 ———	73

表紙の言葉

高校11期 齋藤 庸寛

びょうふひつ
屏風と櫃

依頼された表紙には、どの作品がいいのかすぐには決められなかった。最終的には標記の作品にした。10数年前、執拗なほどこだわり描き続けていたその一つ。

あの時分、あれほどこだわったのはどうしてなんだろうと今になって考えさせられる。描くときは、何となくこれを描いてみたいという気分や衝動にそっていくもので、自分をじっくり見つめたり、分析したり、対象化する眼はほとんど働かない。(もともと、後者の視点は、言葉で展開されるものであり、評者の立場、キャンパスを前にして色や形で世界を創ろうと格闘する作者には、直接には無縁であり無くてはかまわないもの。)

とはいえ、あの時は、背景に屏風が立つと、世界が一変するような世界に魅せられていたと言えよう。壁で独立したふたつの空間に仕切らなくても、屏風を立てるだけでその前には新しい空間が広がると感じる魅力だろるか。俗っぽく、偏った、そして後進的・アジア的な私の感性によるものかもしれない。